



▲壬生城址公園

県央南部に位置する壬生町は、古くは室町時代に築かれた壬生城の城下町として知られ、江戸時代には日光街道の宿場町や黒川の河川交通の要衝としても栄えました。交通面では今も充実した環境にあり、現在、町内には東武宇都宮線の4つの駅や北関東自動車道壬生インターチェンジが存在します。そうした利便性もあってか、2005年以降、壬生町は「県内で最も人口の多い町」というユニークなポジションを占めてきました。

これは、単に交通面のメリットのおかげだけではありません。昭和30年代末より輸出玩具のための工業団地（おもちゃのまち）の開発が進み、町の産業を支える柱となったこと、昭和49年の獨協医科大学病院の進出で医療面の環境が充実したこと（人口10万人あたり医師数は全国4位、同看護師数が全国5位）など、さまざまな要因が関係しています。今日、壬生町は町民の9割が「住みたい 住み続けたい町」と答える、便利で快適な「緑園都市」に発展したのです。



いちご一会とちぎ国体の「スポーツクライミング会場」に

令和4（2022）年10月に開催される第77回国民体育大会（いちご一会とちぎ国体）で、壬生町はスポーツクライミングの会場に決定しました。

ボルダリングを含むスポーツクライミング競技は、2020年の東京オリンピックで正式種目に採用された、今注目のスポーツ。町内には、一般の方にも手軽にボルダリングを楽しめる施設が整備され（壬生町総合運動場と嘉陽が丘ふれあい広場）、この4月には壬生町総合運動場を会場に「ボルダリングとちぎカップ2019 in MIBU」が開催されました。



個性豊かな県内の各市町を
ご紹介しているこのページ。
今回は、壬生町を
ご紹介します。

県内探訪

Tchigi

壬生町

「壬生町」

～古くは城下町・宿場町として栄え、
今は“おもちゃのまち”で知られるユニークな町



テレビなどでも紹介される壬生町のユニークな地名が、「おもちゃのまち」。漢字は使わず、「おもちゃ」も「まち」も、すべてひらがなで書くのが正しい表記です。

この夢のあるネーミングは、昭和37年に誘致が決定された輸出用玩具の工業団地が発端でした。工場の立地として条件が悪化した東京を脱出すべく移転先を探していたおもちゃメーカーに対し、壬生町は競争相手を退けて移転先に決定。

●壬生町おもちゃ博物館



壬生総合公園内、中世の城をイメージしたカラフルな建物のおもちゃの博物館。貴重なブリキのおもちゃなど新旧のおもちゃ約9000点の展示のほか、体を使って遊べる大型遊具、未就学児向けのお遊びゾーン、鉄道模型の部屋など、大人も子どもも一日楽しく遊べます。

おもちゃのまち

～博物館やゆるキャラにも関わる町のアイデンティティ

テレビなどでも紹介される壬生町のユニークな地名が、「おもちゃのまち」。漢字は使わず、「おもちゃ」も「まち」も、すべてひらがなで書くのが正しい表記です。

39年に11社が操業を開始して以降、同年に東武宇都宮線の「おもちゃのまち駅」が新設され、工業団地は規模を拡大していきました。

当初、「おもちゃのまち」は駅名だけの名称でしたが、ユニークな駅名として知名度は急上昇し、昭和52年には周辺地域の住居表示自体が「おもちゃのまち」に統一されたのです。

その後は円高や産業構造の変革などもあって、日本の玩具生産は様変わりしました。しかし今も、「おもちゃのまち」の地名は広く全国的な知名度を維持しております。

ゆるキャラ 壬雷ちゃんとミーナ

壬生町では、いくつかのご当地キャラが活動しています。おもちゃ博物館開館と同じ平成7年に誕生の「壬雷ちゃん」は、雷の多い壬生町に因って生まれたキャラクター。壬生町農産物ブランド「みぶの妖精」PRのイメージキャラ「みぶの妖精ミーナ」は、壬生町出身の漫画家で、スタジオジブリ作品「耳をすませば」や「猫の恩返し」の原作者として有名な「柊あおい」さんのデザインとして話題です。



壬雷ちゃん



みぶの妖精ミーナ

●東雲公園

黒川両岸に約250本の桜が咲き誇り、とちぎ景勝100景のひとつである桜の名所。ピクニックや散歩などで親しまれています。



●壬生城址公園（壬生城跡）

壬生城址に残る土塁や堀に、門や石垣を復元して造られた城址公園。公園内には歴史民俗資料館、図書館、ホールなどの施設も整備されています。



●歴史民俗資料館

特色ある町の歴史と文化を3つのコーナーで展示するほか、毎年、“みぶ”にゆかりのユニークな企画展を開催します。



●道の駅みぶ

高速道路と一般道の両方からアクセス可能な壬生パーキングエリアに連結する、約53haの大きな道の駅。隣接する壬生町総合公園やおもちゃ博物館、とちぎわんぱく公園にもアクセスしやすい施設です。



◆壬生総合公園

広い芝生広場には大きなアスレチック遊具があり、池には鯉が悠々と泳いでいます。毎年12月初旬には園内の陸上競技場をメイン会場に壬生町ゆうがおマラソン大会が開催されます。



●獨協医科大学の銀杏並木

550mにわたり植えられた約200本のイチョウが、毎年10月下旬から色鮮やかな黄葉に彩られます。



◆みぶハイウェーパークみらい館
道の駅みぶの主要施設で、観光・イベント情報を発信する観光交流センター。



◆とちぎわんぱく公園

ふしぎ体験ができる体験施設・ふしぎの船やこどもの城、はてな広場、アスレチック遊具、夢花壇など、無料で一日遊べる遊び場です。



▲公園正門

壬生町の

パワースポット

スポーツクライミング施設（ボルダリング）

◆嘉陽が丘ふれあい広場

自然の中での野外活動・スポーツ・レクリエーションを行う施設で、体育館にクライミングウォールが設置されています。

◆壬生町総合運動場

幅16m・高さ5mの競技用と幅14.6m・高さ3.6mの一般用、2基のクライミングウォールが設置されています



profile

●壬生町

町のルーツは、江戸時代の壬生藩にまでさかのぼります。壬生藩は、室町時代に建設された壬生城一帯に江戸時代初頭に置かれた藩の名で、維新後は明治4年の廃藩置県で壬生県となり、さらに町村制の施行により壬生町が誕生しました。戦後は、昭和29年に稲葉村との合併で新・壬生町が誕生し、さらに翌30年の南犬飼村の編入合併で、壬生町はほぼ現在の形となっています。

▶面積：61.06平方km

▶人口：39,314人（15,974世帯）

〔令和元年7月末現在〕